



GWが過ぎて、いかがお過ごしでしょうか。串木野高校校長です。よろしくお願いいたします。

今回のテーマは、「久保田里花さん講演会」です。

5/2(木)に、久保田里花さんの講演会を実施しました。

お越しいただいた保護者の皆様、同窓会の皆様、ありがとうございます。

本校の校歌を作詞された、棕鳩十先生のお孫さんで、読書についてのお話も頂戴できました。

学校では、1年生対象に、校歌に込められた内容・思いを感じよう、という、国語と音楽の授業を行いました。

また、全学年対象としては、朝活用の時間に、「大造じいさんとガン」など、3作品を国語科の職員中心に読み聞かせを行いました。

串木野高校は今年度の令和6年度で、96周年を迎えます。同窓会の皆様とお話すると、100周年に向けての準備、という話題が良く出てまいります。歴史ある学校です。今後準備を進めて、令和10年の100周年では、多くの同窓生のご協力をいただけるものと考えております。

串木野高校の歴史を考えるとという意味で、開校記念日のこの時期に、高校にゆかりある方をお招きして、講演会を計画させていただきました。それが今回の、久保田里花さんのご講演でした。

<p>三 朝日子空に 矢をはなち 冠嶽(かんむりだけ)の 高き峰 意気昂然と 眉あげて 邁進やまぬ 若人の 初志動くなし 山のごと</p>	<p>二 荒岩くだき ろに焼きて 輝く黄金(こがね) 創る里 心炎(ほのほ)と 眉あげて 好学はげむ 若人の 知識うるはし 金のごと</p>	<p>一 群青(ぐんじょう)の海 ゆく船の 帆柱高く 明けの星 思ひは虹と 眉あげて 積極つとむ 若人の 前途は広し 海のごと</p>	<p>棕鳩十 作詞 田中義人 作曲</p>
---	--	---	---------------------------

### 【講演内容から】

- ・棕先生は、子どもの頃は何も上手くできない「のび太」タイプだったが、いろんな事件から「ジャイアン」タイプに変わった。
- ・ハイジの本を読んで、生きることが美しい、と感じ、美しさに感激すること、本の大切さを学んだ。
- ・戦争に突入する頃、作品が発禁処分になり、野生の動物を借りて、生きることの尊さを書き始めた。少年クラブで子ども向けの動物作品を書き始めた。
- ・「マヤの一生」は代表作。戦争児童文学の傑作。
- ・「片耳の大シカ」という作品は、屋久島を舞台にしている。そのための取材を重ね、屋久島の魅力を伝える先駆者となった。
- ・県立図書館長を、昭和22年から19年間勤めており、本名の久保田彦穂での校歌作詞も多い。
- ・「孤島の野犬」という作品は、甑島を舞台にした昭和38年ごろの作品。当時、串木野から甑島に取材に行き、港でイワシなどを出版社にお土産として送った。そのころ串木野高校の校歌の作詞がなされている。
- ・県内小中学校56校を作詞し、高校9校では、「朝」の文字が数校で使われている。(本校では「朝日子」という言葉が3番に出てきます。)
- ・人間は素晴らしい力をひとりひとりが持っている。感動が人生を変えた。
- ・(生徒代表お礼の言葉)今を生きる私たちへのメッセージを感じました。勇気や命の大切さを感じました。校歌を作詞していただいたことを誇らしく思います。



演題の「感動は人生の窓を開く」は、棕先生の大切にしていってくださった言葉から取られたということです。この言葉は、鹿児島県立図書館に立派な石碑として建てられておりますので、訪問された際には是非ごらんください。5月7日(火)の南日本新聞に、様子が記事として掲載されました。

串木野高校 頑張っています。



校長 堂園